

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 大谷和雄
 幹事 池田隆
 会報委員長 浅井誠寿

No. 17

まことの幸福は人助けから

REAL HAPPINESS IS HELPING OTHERS

1992~93年度 RI会長 クリフォード・L・ダクターマン

第502回例会 平成4年11月17日(火)晴

◇ “我等の生業”

◇出席報告

会員 69(65)名 出席 49名
 出席率 75.38%
 前回 11月10日(修正出席率)96.92%

◇ビジター紹介 5名

◇お誕生日祝福

青山夫人(11/2)

◇ニコボックス

水野 民也君 秋の叙勲で藍綬褒章を頂きました。

今枝 秀夫君 川奈家族会と共に開催しましたテニス会では伊東RCの御協力を得て親睦の実をあげることが出来ました。

今西 幸一君 11月10日川奈家族例会麻雀会でマグレで優勝致しました。楽しく過ごさせて頂き有難うございました。

中山 信夫君 10周年記念初代水野会長杯取り切り戦ゴルフ会で素晴らしいコース、快適な天候、そして良きパートナーに恵まれ優勝することができました。水野初代会長、立派な優勝杯ありがとうございました。

佐久間良治君 川奈ゴルフ会で田部井君に大変御迷惑をおかけしました。

小杉 啓彰君 11月14日の食べ歩き会皆様ありがとうございました。

石田 耕嗣君 本日卓話をさせていただきます。

水野 賀統君 雑誌の窓の当番です。

西尾 正巳君 お久しぶりです。

山本 眞輔君 第24回日展(現在上野公園・都美術館で開催中)で日展会員賞を受賞いたしました。

青山 敏郎君 夫人誕生日祝い。

市原 教男君、釜谷 健一君、大谷 和雄君、笹野 義春君、魚津 常義君、渡辺 辰夫君

結婚記念日祝い。

◇池田幹事報告

1. 本日例会終了後、臨時総会を開催いたしますので、全会員そのままお残り下さい。
2. 次回例会終了後、理事役員会を開催いたしますので、理事役員の方はお残り下さい。
3. ロータリーの友11月号が来ておりますので、お帰りにお持ち下さい。

◇バナー紹介

伊東RC 今枝 秀夫君

◇大谷会長挨拶

花のコーラス - 女声と男声 -

9月8日の例会で、中田喜直作曲の「夏の思い出」を聞いて頂きました。女声合唱の曲でした。女声合唱は、ソプラノ、メゾソプラノ、アルトの3部が普通です。これ以上の細分は、音色的に判断が難しくなるからです。人間の出しうる声の範囲を声域といい、洋楽では歌手の歌う声の高さの範囲を6種に分けています。女声は、高音(ソプラノ、330~1046サイクル)、次高音(メゾソプラノ、196~784サイクル)、中音(アルト、196~587サイクル)、男声は、次中音(テノール、131~392サイクル)、上低音(バリトン、98~349サイクル)、低音(バス、82~262サイクル)です。声種も、声域と音色により同様の6種ですが、ソプラノの中で、技巧的な華麗なものをコロラトゥーラ、叙情的表現に適したリリコ、劇的な表現のドラマティックに分け、テノールも、軽い音質のレッジエーロ、リリコ、ドラマイコ、力強いロブストに分けます。バスも、旋律美を表わすバスソカンタンテ、荘重なセリオ、深い響きのプロフォンテに分かれます。

女声合唱は低音が弱いのはほとんどの場合、伴奏があり、同時にリズムを補って完全なものにしています。男声合唱は、第1、第2テノール、バリトン、バスの4部が普通で、音色の統一という点では、男女の声の混じり合った混

声合唱をしのぎます。重厚な低音に支えられた渾然としたハーモニーが特長です。

16世紀ごろ、コサックという集団をつくってドン川その他の大河の流域に事実上独立国家が形成されていました。中でも強力な集団がドンコサックといわれ、この生活の中から「民族的多声歌」が生まれました。ここで育った「ドンコサック合唱団」の男声合唱をお聞き下さい。指揮セルゲイ・ジャーロフ。

次に、女声合唱をお聞き下さい。中田喜直作曲「雪の降る町」指揮三宅洋一郎、伴奏三浦洋一、フェリス女声合唱団。清純で透明、男声合唱と女声合唱のそれぞれの良さがお解り頂けたと思います。

◇講演

“10年を振り返って”

会員 石田 耕嗣君



本日は「ロータリーの10年を振り返って」というタイトルで、話を進める訳ですが、この10年間で私にとりまして一番印象に残っております発足当時の事を話してみたいと思います。今から丁度10年前の昭和57年

8月16日、初めての顔合わせが厚生年金会館で行われました。創立会員26名の他、大隈ガバナーを初め、スポンサークラブである東RCの関係者多数のご臨席のもと、創立総会が開かれました。そして、東RCの故余語特別代表より、創立に至るまでの経緯の説明があり、ガバナーからはRCの基本精神について話がありました。発足当時は何せ会員数が少ないので、1人で何役も引き受け、不慣れな仕事に四苦八苦の状態でした。その時私が仰せつかった仕事は会報委員長という役でしたが、原稿の校正、編集など、全く要領がわからない為苦勞した記憶がございます。そして一方では10月19日のチャーターナイトに向けての準備も着々と行われていました。

先ず、実行委員会が設立され、会員にもれなく役割が分担されました。私が仰せつかった第1の仕事は、会員の谷口さんと共に市内のRCの例会に向向き、参加依頼をする事でした。そしてもう1つの仕事は受付でして、委員長の成田さんを中心として、何度も綿密な打ち合わせをして参りました。受付の仕事の中には当日の参加者に渡す「おみやげ」の準備があり、約1,000個分の袋詰めの作業にへとへとになった記憶があります。準備万端整い、いよいよチャーターナイトを迎える事になりました。当日はチャーターメンバー26名に新会員13名を加えた39名の会員と、特別来賓として、当時の仲谷知事、本山市長のご臨席を

賜わり、大隈ガバナーを初めとするロータリー関係者約1,000名によって、厳肅な雰囲気の中で盛大に行われました。アトラクションとして、外山雄三指揮による名古屋フィルの素晴らしい演奏があり、感激の内に無事お開きとなりました。

今10年を振り返ってみて、チャーターメンバー及びその家族が中心になってのチャーターナイトは、奉仕の精神の結晶であり、創立総会からチャーターナイト挙行までの準備こそが、クラブの基礎作りであったと感じる次第であります。

今年千種RC創立10年目を迎え、私自身気持ちを新たに、ロータリー精神について考えてみたいと思います。本日はご静聴誠に有難うございました。

雑誌の窓

日頃、自分のロータリー活動を省みて、「奉仕団体であるロータリーの一員として、自分の投入しているエネルギー(精神状態、時間や金銭)の中、本当に奉仕につながっているものが少な過ぎるのではないか?、これでロータリアンと云えるのか?」という思いを抱いておりますが、当会第6代目会長も、同じことを私に云われたことがあります。

そんな時に、「ロータリーの友」を読むと大変勇気づけられます。

特に「ガバナーのページ」を読むと、それぞれの立場で、ロータリーの哲学を説き、経験を語り、ロータリーの素晴らしさとロータリアンとしての決意を述べておられます。

大変印象に残ったのは、10月号の第2660地区戸田孝PGの紹介されたポール・ハリスの言葉でした。

「河の源流はただ一つの泉によるものではなく、幾百の溪流がそれぞれ山肌を流れて水路に注ぎ、水かさを増して大河を形成するに到るのだ」

ロータリーという大河に注ぐ源流のひとつになっっているのか?を自問自答しながら、紹介させていただきます。

担当 水野 賀統君

ちょっとPR

私、秋の褒章で藍綬褒章を頂くことになり、先日東京まで行って参りました。ボウリング場協会関係者が産業振興で褒章を頂くのは初めてなので、感激しています。ボウリングは88年より国体の種目に採用されましたが、今後オリンピック競技種目となるよう努力していくつもりです。水野 民也君

◇次回例会(11月24日)

友愛の日(立食)

◇次々回例会(12月1日)

講演“Study in Japan”

米山奨学生 孫 宏業君